

伊賀市議会研究研修報告書

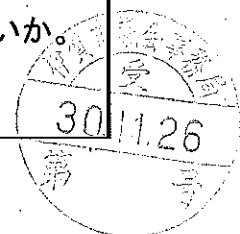
伊賀市議会議長 岩田佐俊様	報告者	議員名	上田 宗久
研修会名	第30回全国市議会議長会研究フォーラム		
日時	平成30年11月14日(水)13時 ~ 11月15日(木)11時		
場所	宇都宮市文化会館		

【研修の成果】

今回の第13回全国市議会議長会研究フォーラムへの参加は、地方議会を構成する一人として初めてであった。地方議会の権能強化をめざし共通する課題や今後の議会のあり方について学ぶことは、大変意義あるものとなった。伊賀市議会でも、議会改革の一環として、今年度になってからこれまでの「議会報告会」の見直しの議論から「タウンミーティング」への試行を計画している。近年、議会議員選挙の投票率が低下傾向にあり、「議会と住民の関係について」やや希薄な関係になりつつある中で議会が、住民にとって魅力ある議会になっていく事が求められている。地方自治の根幹を成す議会がどうしたら住民の議会に対する関心を高められることが出来るかが今回の主要なテーマであった。

第1部の宮木太郎教授の基調講演では、日本人の半数が107歳まで生きられる時代に2040年までに「人生100年」、の時代に到達するが、しかしなぜ幸福感が広がらないのか?困窮化と孤立化が加速していく可能性があるが、これを打開していくのは、これからの地域づくりの新しい目標「地域共生社会」を築いていく必要があると教授は提案している。これまでの制度・分野ごとの「縦割り」「支えて」「受けて」という関係を超えて地域住民や、地域の多様な主体が『我が事』として参画し地域を共に創っていく社会の実現を呼びかける。

第2部の『議会と住民の関係について』のパネルディスカッションでは4人のパネリストの中で、人吉市議会議員を二期務め、現在も農村レストランひまわり亭代表取締役で活躍中の本田節氏が紹介された。これからの地方は人口減少や少子高齢化といったさまざまな問題にたちむかわねばならない。そこでひまわり亭の雇用は『待ちました定年!60歳新入社員、生涯現役!』モットーとし、人こそ資源という高齢化社会を逆手に捉えたコミュニティビジネスを築き上げた。国が奨める農民泊事業、地域マネジメント事業などを通して新しい農村コミュニティありかたの創造をめざして今も活躍中であることが紹介された。伊賀市阿波にある『あわたんぼうレストラン』島ヶ原にある「おかみさんグループのレストラン」がその例に当たるのではないかと。



第4部の課題討議のパネルディスカッションでは犬山市議会議長のピアンキ・アンソニー氏が「市民参加」と議会機能向上！」をテーマに議員間討議推進と議会の政策立案・政策提言力向上と市民参加の3点の取り組みを紹介した。議員間討論では、一般質問や上程議案の内容などを協議する議員間討議を推進した結果、いぜんより議会からの提案が活発になった。又全員協議の議員間討議から公共施設の利用や予約について申し入れを行った事例がある。議会への市民参加では、市民が議場で発言できる5分間の「市民フリースピーチ制度を導入した。「アメリカの地方議会でも議場で発言するのは普通です」と議長が言う。これまで20人の市民の発言実績がある。観光政策への提言や高齢者の防犯対策などさまざまな意見が出たという事です。「議員が気付かない鋭い意見も多く制度を定着して政策に生かしたい」考えているとの事です。傍聴席はあっても意見も言えず、ただ見ているだけ。よそよそしい空間を住民に開くそんな取り組みも必要ではないだろうか。

今回の全国議長会の研究フォーラムに参加してどの議会も議会改革に取り組んでいて、市民と議会の距離を少しでも近づける工夫をしている。それぞれの市や議会でもそれぞれの特性があり全国一律でなくてもよい工夫をしていくべきだと示唆された。意義ある2日間でした。

この11月は7～8日は東京都町田市議会では「議会改革(高校生意見交換会など)と予算・決算の分割審査について」と埼玉県所沢市議会「議会改革(ワールドカフェ、大学連携、議会評価など)と予算の分割審査について」さらに11月12日では伊賀市・名張市議会連絡協議会議員研修会では「議会改革の進め方について」高沖秀宣氏の講演と連続して研修を受け、今後の伊賀市議会でも他市を参考にしてよりよい議会改革に結び付けて行く材料をたくさん頂いたと感じた次第です。

費用

旅費：49,420円

研修参加費：7,000円

合計：56,420円

旅費請求書続紙(明政クラブ)

出張月日	出発地	経路	到着地	鉄道・船・車賃				食卓料	日当		宿泊料		出張理由 (目的・場所)
				料程	運賃	特急料金 急行料金	寝台料		日数	額	宿泊	額	
				円	円	円	円	日	円	夜	円		
11月14日	伊賀神戸	近鉄	名古屋	112.2	1,560	1,320						第13回全国市 議会議長会 フォーラムin宇 都宮(1日目) 宿泊代8000円 (1泊朝食付 き)+夕食代 1700円	
	名古屋	新幹線	東京	366.0	7,560	4,630							
	東京	新幹線	宇都宮	109.5		2,790							
	宇都宮	JR	小山	28.9	500			1	1,500	1	9,700		
11月15日	小山	JR	宇都宮	28.9	500							第13回全国市 議会議長会 フォーラムin宇 都宮(2日目)	
	宇都宮	新幹線	東京	109.5	7,560	2,790							
	東京	新幹線	名古屋	366.0		4,630							
	名古屋	近鉄	伊賀神戸	112.2	1,560	1,320			1	1,500			
計					円	円	円	円		円	円	合計	
				19,240	17,480			2	3,000	1	9,700	49,420	

※フォーラム会場は宇都宮市だが、申込み多数で抽選により宿泊先が小山市内のホテルしかとれなかったため、宇都宮～小山間の交通費も支出する。

領収書等添付用紙	議員名	上田宗久
調査研究費・ <u>研修費</u> ・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費 人件費・事務所費		(該当項目に○をつけてください。)

領収証

No.

上田宗久 様 H30年10月26日

金額	¥35720
----	--------

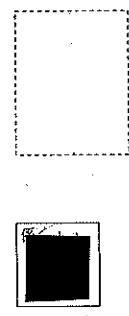
内
消費税等

但 11/14~15 交通費
上記正に領収いたしました

現金	
小切手	

三重県伊賀市上野丸之内500
コスモス観光ハイトピア伊賀店
TEL 0595-22-1188
FAX 0595-22-1186

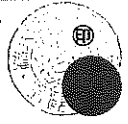
HISAGO #778



No.0454-4

領収証 RECEIPT

J T B 宇都宮支店
宇都宮市池上町4-1
TEL : 028-614-2001
平成30年11月26日



上田 宗久 様

下記の金額正に領収いたしました。

¥8000*

出納責任者	取扱者

第13回全国市議会議長会研究フォーラム
但し、宿泊代として(1泊朝食付)

領収箇所名及び領収者印の無いもの並びに金額訂正のものは無効です。

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

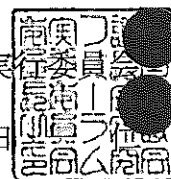
平成30年11月22日

伊賀市議会 上田 宗久 様

参加費領収書

第13回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

委員長 山田



東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

参加代金として

平成30年11月14日・15日開催 (宇都宮市)

第13回



全国市議会議長会 研究フォーラム

平成30年

日時

11月14日(水)・15日(木)

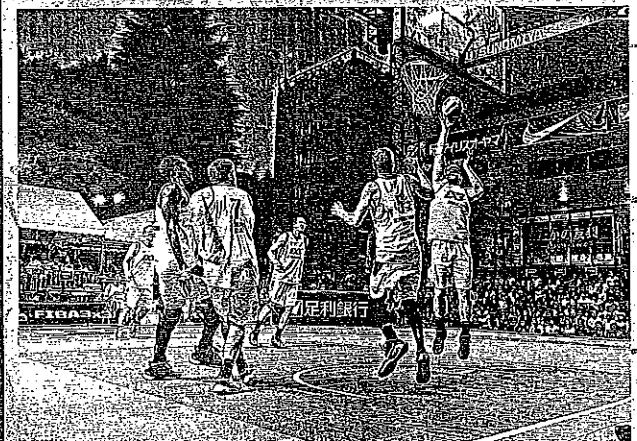
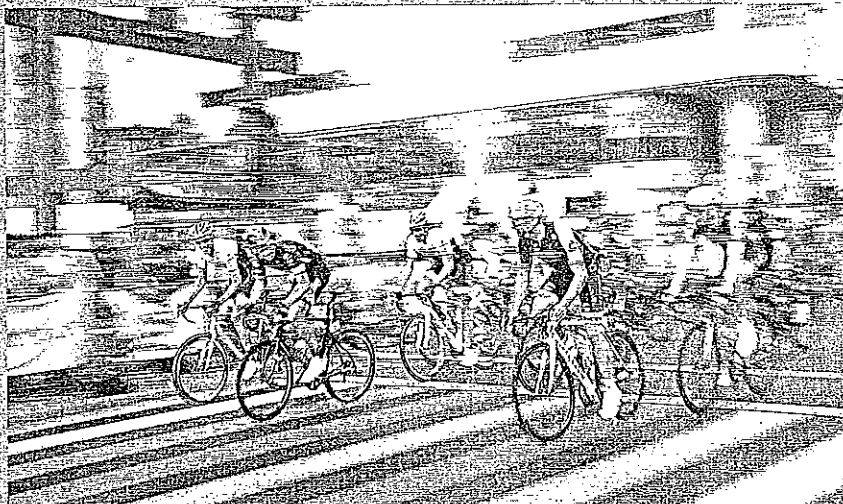
13:00~(開場・受付12:00~) 9:00~(開場8:30~)



会場

宇都宮市文化会館

栃木県宇都宮市明保野町7-66



第13回

全国市議会議長会 研究フォーラム



主催者挨拶



全国市議会議長会会長
札幌市議会議長

山田 一仁

第13回全国市議会議長会研究フォーラムを、ここ宇都宮市において開催いたしましたところ、多数のご参加をいただき誠にありがとうございます。

さて、地方議会は多様な民意の集約を本義とし、議会制民主主義による住民自治の実現という極めて重要な機能を担っております。議会改革の一環として、議会報告会、休日・夜間議会や子供・女性議会の開催など、住民代表としての機能強化を積極的に推進しております。

しかしながら、必ずしも住民に身近で魅力的な存在とはなっていない面があると思われま。た、近年議員選挙の投票率は低下傾向にあり、加えて小規模市町村においては、地方議会議員のなり手不足の問題が顕在化しております。

本フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、さらなる地方議会の権能強化を目指し、共通する課題や今後の議会のあり方について意見交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的としております。

今回は、「議会と住民の関係」をテーマとし、平成31年に実施される統一地方選挙を控え、人々の社会と生活が大きく変化する時代において、地方自治の根幹をなす議会が住民とどのように関わり、どうすれば住民の議会に対する関心を高めることができるか、広く討議してまいります。

各分野における専門家、識者の方々や議員の皆様方によって活発な議論が交わされ、実りある成果が得られますことを期待するとともに、皆様方の今後の活動の一助となることを祈念いたします。

プログラム

■第1日目 11月14日*

12:00	開場・受付
13:00	開会式
13:20	第1部 基調講演 「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち 宮本 太郎 中央大学法学部教授
14:20	休憩
14:40	第2部 パネルディスカッション 議会と住民の関係について 江藤 俊昭 山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 今井 照 (公財)地方自治総合研究所主任研究員 本田 節 有限会社 ひまわり亭代表取締役 神田 誠司 朝日新聞大阪本社地域報道部記者 小林 紀夫 宇都宮市議会議長
16:40	次期開催地挨拶
16:50	次期開催地挨拶終了
18:00	第3部 意見交換会【会場-宇都宮グランドホテル】
19:00	意見交換会終了

■第2日目 11月15日*

8:30	開場
9:00	第4部 課題討議 議会と住民の関係について 江藤 俊昭 山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 桑田 鉄男 久慈市議会副議長 伊藤 健太郎 新潟市議会議員 (新潟市議会主催者教育推進プロジェクトチームリーダー) ピアンキ アンソニー 犬山市議会議長 道法 知江 竹原市議会議長
11:00	閉会式
11:30	第5部 視察

宮本 太郎 みやもと たろう

中央大学法学部教授

1958年東京都生まれ。中央大学大学院法学研究科修了。立命館大学法学部助教授、北海道大学法学部教授などを経て、2013年より現職。単著に『共生保障「支え合い」の戦略』(岩波新書)、『生活保障 排除しない社会へ』(岩波新書)ほか多数。編著に『転げ落ちない社会 困窮と孤立をふせぐ制度戦略』(勁草書房)など。安心社会実現会議委員、内閣府参与、総務省顧問、男女共同参画会議議員、中央教育審議会臨時委員、社会保障制度改革国民会議委員など歴任。現在、日本学術会議特任連携会員、社会保障審議会委員、東京都税制調査会委員、全国社会福祉協議会理事、『月刊福祉』編集委員長、一般社団法人「生活困窮者自立支援全国ネットワーク」代表理事など務める。



パネルディスカッション



江藤 俊昭 えとう としあき

山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授

1956年東京都生まれ。1986(昭和61)年中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学、博士(政治学)。専攻は地域政治論。三重県議会改革諮問会議議長、鳥取県首領町行政改革審議会会長、第29次第30次地方制度調査会委員、総務省「町村議会のあり方に関する研究会」委員等を歴任。現在、マニフェスト大賞審査委員、全国町村議会議長会「議員報酬等に関する研究会」委員長、全国町村議会議長会特別表彰審査委員、地方自治研究機構評議委員、など務める。主な著書に、『議会改革の第2ステージ-信頼される議会づくりへ』(ぎょうせい)、『自治体議会の政策サイクル』(編著、公人の友社)ほか多数。現在『ガバナンス』(ぎょうせい刊)、『議員NAVI』(第一法規)連載中。



今井 照 いまい あきら

(公財)地方自治総合研究所主任研究員

1953年生まれ。博士(政策学)。東京大学文学部社会学専攻課程卒業。1977年から東京都立学校事務、大田区役所(企画部、産業経済部、地域振興部等)を経て、1999年から福島大学行政政策学専攻教授。2017年より現職。著書『地方自治論』(自治体再建)『いずれも、ちくま新書』(図解よくかる地方自治のしくみ(第5次改訂版))『学術書房』『福島インサイドストーリー-後場職員が見た原発避難と震災復興』(公人の友社)ほか多数。



本田 節 ほんだ せつ

有限会社 ひまわり亭代表取締役
食・農・人総合研究所 リュウキンカの郷主宰

熊本県球磨郡相良村の専業農家に生まれ、熊本県立人吉高等学校卒業後、地元で農協に就職。現在3児の母、37歳の時に1年間のガンとの闘病生活を体験。それをきっかけとして、より深く「食・農・命」について考えるようになる。その後「ひまわりグループ」を結成し、ボランティアやまちづくり活動を始める。そこで出会った仲間たちと地産地消「食」を地域資源とした拠点、「郷土の家庭料理 ひまわり亭」を立ち上げ現在に至る。生来おしゃべり大好き!おせっかい大好き!お料理大好き!そして人間大好き!ということで、全国を講演等で年間約半近くを走りまわっている元気なお母さん。



神田 誠司 かんた せいじ

朝日新聞大阪本社地域報道部記者

1983年朝日新聞入社。社会部、政治部記者として地方自治、地方分権を取材。両部でデスクを務めた後、2005年から13年間、地方自治担当編集委員。地方議会のあり方についても、全国議会アンケートをもとにした報道や、連載「議会未来形-必要論を超えて」や、単発記事などで発信を続けていた。2018年4月から現職。著書には『今、地方で何が起きているのか』(共著、公人の友社)、『益々情熱(論談社)』。この10月には、地方創生のモデルとして注目される徳島県神山町をルポした「神山進化論-人口減少を可能性に変えるまちづくり」(学芸出版)を出版。11月には全国の地方議会改革を紹介する連載「議会改革をたどって」(10回)を掲載予定。



小林 紀夫 こばやし のりお

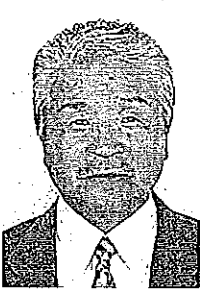
宇都宮市議会議長

1961年宇都宮市生まれ。帝京大学大学院経済学研究科修士課程修了。県議員を経て2007年5月から宇都宮市議会議員を務め、現在3期目。その間、環境経済常任委員会委員長、議会運営委員会委員長、議会制度検討会議委員、農業委員、監査委員を歴任。議会制度検討会議委員時代には、「一般質問における対面方式、質問方式の選択制」や「執行部の反問権付与」などの実施。2013年に制定された宇都宮市議会基本条例の制定に尽力。2016年5月から2016年3月まで副議長を務め、2018年3月に第72代宇都宮市議会議長に就任。現在議会全体の政策形成能力を高めていくことを目指し、議会改革に取り組んでいる。

課題討議

江藤 俊昭 えとう としあき

山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授



桑田 鉄男 くわた てつお

久慈市議会議長

1947年久慈市生まれ。郵政省職員を経て1999年4月に久慈市議会議員初当選後、連続5期目。その間、産業経済委員長、建設委員長、教育民生委員長を歴任。2010年に議会運営委員長に就任後、議会改革を提議し検討に着手。議会改革検討委員長、議会改革推進特別委員長を歴任し、議会基本条例制定をはじめ議会改革の牽引役を担った。また、2011年に東北地方太平洋沖地震災害対策特別副委員長に就任した際、議会改革の必要性を感じ、その後の議会活動の活性化に尽力。現在、副議長として議会改革推進会議副議長を兼任し、改革の原動力となっている。



伊藤 健太郎 いとう けんたろう

新潟市議会議員
新潟市議会主催者教育推進プロジェクトチームリーダー

1973年新潟市生まれ。新潟市育ち。1994年新潟市役所入庁。防災課、APEC開催推進課、政策調整課等に配属。2014年12月、政治を志し、中央区役所健康福祉課主幹を最後に退職。2016年、新潟市議会議員(中央区)当選。市民厚生常任委員会、人口減少対策調査特別委員会、少子化調査特別委員会に所属。20年余の行政経験を踏まえ、子ども、子育て支援と地域コミュニティ施策を中心に、よりよい新潟市の発展を目指して日夜奔走している。



ピアンキ アンソニー

犬山市議会議長

1980年ニューヨーク大学を卒業後、ハリウッドでテレビ番組制作に携わる。ニューヨーク市役所を経て1996年から2003年まで犬山市教育委員会に勤務。犬山市独自の英語(NET)プログラム作成、英語教育専門資格取得の外国人英語教師を招聘。2002年日本国籍を取得。2003年から現在まで犬山市議会議員を務め、2017年5月から現職。2006年にニューヨーク市議会より日本とニューヨーク市民との国際友好事業に尽力した功績で、また、総務大臣よりJETを通じた地域の国際化推進に尽力した功績で表彰を受ける。



道法 知江 どうほう ともえ

竹原市議会議長

1957年東京都板橋区生まれ。東京都立北園高等学校卒業。瀬戸内のみかん農家に嫁ぐ。2006年から竹原市議会議員を務め、現在3期目。4人の子どもを育てた経験を活かし、妊婦健診に係る費用助成の拡大や、乳がん、子宮頸がん対策を推進。副議長、予算特別委員会委員長等を歴任し、2016年11月から第30代議長に就任。竹原市初の女性議長として、「議員力アップ」と「議会の見える化」を目指し、議会改革に積極的に取り組んでいる。